

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成19年9月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2871800245		
法人名	株式会社 高林		
事業所名	グループホームときの郷		
所在地	(〒 677-0015) 兵庫県西脇市西脇 2 7 3		
	電話	0795-22-8700	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町 2 丁目 2 番14-703号		
訪問調査日	平成19年8月7日	評価確定日	平成19年9月19日

【情報提供票より】 [平成19年7月27日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年6月15日		
ユニット数	1ユニット (利用定員…計9人)		
職員数	9人	(常勤8人) (非常勤1人)	/ 常勤換算7.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	地上3階建て建物の 1階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	20,000円	
敷金の有・無	有り (円) ・ (無し)			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	(有り) (200,000円) ・ 無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	(有り) ・ 無し	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日あたり		1,200円	

(4) 利用者の概要 (平成19年7月27日 現在)

利用者人数	計8名 … (男性3名) (女性5名)		
要介護1	3名	要介護2	4名
要介護3	1名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均82歳 … (最低76歳) (最高86歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西脇市立西脇病院	広田歯科医院
---------	----------	--------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

西脇市内の中心部に在り、大変便利。普段の買物は近くの生協(地区コミュニティセンターを併設)を利用している。周囲には公園や国の登録文化財があり、少し歩けば水路に鯉も鑑賞できるなど、街中ながら日々の散歩を気持ち良く楽しめる。「人その人らしく」を事業所理念とし、入居者へのケアは、個別支援を重視しながら、ごく普通の日常生活をおくれるよう心掛けている。運営主体の代表者は医師であり、往診はもちろん、いつでも連絡が取れ、緊急時対応において心強い。職員は、世代に偏りがなく、また、定着率も高く(この1年、顔ぶれは変わらない)、入居者との絆は深い。入居者の多くは地元の人であり、併設デイサービスの利用者らとにこやかに会話を楽しんでいた。◎添付の資料写真も参照

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ①身体機能低下への対処として、家具をベッドサイドに置くなど工夫した。②定期的に(3カ月に1度)ケアカンファレンスを開催するようになった。③行事食やおやつ作りを職員と協働するようになった。④出納状況を毎月家族等に報告することにした。⑤研修・勉強会の機会を増やした。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) ①日頃の業務を見直すためのツールとして自己評価票を活用している。今回の自己評価については、主に計画作成担当者と管理者が担当した。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 運営推進会議は、まだ開催していないが、近々、利用者およびその家族、民生委員、地域包括支援センター職員、行政機関職員等の出席により、開催を予定している。
重点項目②	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族等への報告に関しては、入居者ごとの便りは出していないが、家族の面会時に日々の暮らしの様子などをお知らせし、また、「ときの郷通信」で(年に1回発行)、写真も多く掲載し、入居者者全体の様子とホームからの連絡事項等を伝えている。家族等が面会に訪れた際には、リビングで、家族・職員・他の利用者が一緒に過ごす時間を設け、ごく自然な(日頃の)様子を感じて頂き、意見を述べてもらっている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 利用者の知人が気軽にホームに立ち寄り、職員も他の利用者も、皆が顔見知りになり、交流できている。季節ごとの町内の清掃作業に参加し、職員と利用者が一緒に回覧板を受け渡すなどしているが、自治会との交流はまだ浅く、地域行事(夏祭り・秋祭りなど)への参加についても検討課題にしている。今後は、地域に対してホーム開放の一環として、集会所の有効活用も考えている。



▲ ベランダ



▲ 血圧計も常設



▲ 協働（わらじ作り）



▲ 居室には馴染みのタンスも持ち込み…



▲ 入居者が使いやすい
引き出し式の食器棚



▲ 椅子を動かしやすくする工夫



▲ 散歩道の風景



2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人その人らしく」を事業所理念とし、個別支援を強く心掛け、一般的な日常生活を送ることを重要視している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	人と接することに重きを置いた取り組みをしている。例えば併設するデイサービスによく出かけ、馴染みのデイサービス利用者と話をしたり、職員と共に買物に出かけたり、散歩したりしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の知人が気軽に立ち寄り、職員や他の利用者も顔見知りになっている。季節ごとの町内清掃作業に参加し、回覧板も利用者とともに持って行っている。職員は、利用者から、わらじ作りを教わったりもしている。	○	徐々に地域住民とのつきあいが拡がりつつあるが、地域行事などへの参加も、さらに積極的にしてもらいたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価・第三者評価に目を通し、日頃の業務を見直すためのツールにしている。これをきっかけに、日常業務の改善、レクリエーションの改善について具体的に取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ開催していないが、利用者およびその家族、民生委員、地域包括支援センター職員、行政機関職員等が出席のもと、8月下旬に第一回運営推進会議を開催する予定である。	○	今後は、定期的な開催をお願いする。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者家族から成年後見制度について相談されることもあり、計画作成担当者が中心になって、地域包括支援センター等に相談しながら支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、写真や金銭出納報告をし、家族面会の都度、日々の暮らしの様子などを報告している。個別の便りを作るには至っていないが、年に1回、ホーム便り「ときの郷通信」を発行し、多くの写真を交えて利用者全体の日常や行事の時の様子のほか、年間行事の報告、連絡事項などを載せている。	○	毎月、送付する領収書や写真等に、ケア担当者がちょっとしたコメントを添える…などをしてみてはどうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が面会に来られた際は、リビングで職員や他の利用者と一緒に過ごしてもらい、様子を実感していただいたうえで意見を述べてもらっている。重要事項説明書には複数の相談窓口を記載しており、職員へ気軽に意見を寄せてもらうように伝えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間において離職は無いが、離職する時は1カ月前に申し出るシステムになっている。過去には、職員の離職時に、後任が決まるまで留まってもらう旨の配慮したりもしている。		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修受講は順番制にしており、順次「すこやか介護研修」などの研修を受けている。法人の代表者でもある医師はもちろん、併設デイサービスの看護師等の協力しても得て、ホーム内で勉強会をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護認定審査会にて他の事業所の職員と顔を合わせた時や、同業者の集まりや勉強会に参加した時に、情報交換をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者とその家族を交え、入居前の面談やホーム見学を実施し、あらかじめ、現在困っていることや不安に思っていることを聴き取り、ホームとしての対を話し合ったうえで入居してもらっている。希望があれば体験入居も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と同じ目線に立ってサポートし、色々な知恵や教えも頂きながら一緒に“暮らして”いる。また、利用者は近隣の方が多くこともあり、外出し知人と会話したり、隣接のデイサービスに遊びに行ったりしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に家族等から利用者の生活史情報を収集し、日常生活パターンを把握した上で、本人の思いや希望の把握を行ない、楽しく生きがいのある生活ができるように支援をしている。帰宅願望の強い方の場合、外出に2時間程度職員が付き添うこともある。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	初期介護計画は、入居時の情報書類のうち、「バックグランド」「生活の様子」「家族状況とグループホームに期待すること」シートをもとに立案しているが、家族等の同意・署名がない場合がある。	○	立案した介護計画は家族等に確認していただき、確認の署名をいただくようお願いする。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の状態は、個別記録や連絡ノート等に記録している。各職員は毎日のミーティングでそれらの情報を共有し、介護計画に変更が生じる場合は、関係者と検討を行ない、見直した介護計画を作成している。	○	日々の記録記入に重複項目が多くみられる。業務効率化のためにも、書式を見直されると良い。
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設するデイサービスの知人を訪れたり、場合によってはデイサービスの特浴を利用したりするなど、利用者の状態に合わせて柔軟に対応している。	○	併設する集会所を地域活動の拠点にするなど、有効利用を検討してほしい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の代表者が医師(開業医)であり、月に2回、訪問診療をしている。家族の協力も得て、希望の医療機関への支援も行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期のケアその他に関しては、家族からも相談を受けており、主治医と相談しながらホームでどこまで対応が可能かなど検討している。常時医療が必要で無い限りは、できるだけ対応する旨の方針であるが、限界があることを家族等に伝えている。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者それぞれの個性を把握しており、入居者一人ひとりの対応方法や礼儀には特に注意を払っている。介助も、「さりげなく」を心掛けている。個人情報には職員一人ひとりが気を付け、事務室からの書類の持ち出しは禁止し、ホーム外での言葉にも注意するようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれの表現(それぞれの個性による動作)も職員が理解できるようになってきており、上手くコミュニケーションが取れ、職員との良い関係が築けてきた。例えば、毎夕食時にビールを飲まれる利用者には、希望に応じて適量を提供するなど、その人に合った支援をしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや後片付けを職員と利用者が協働し、食事前にはメニューを利用者に読んでもらい、共に食卓を囲み楽しい雰囲気ですべてができています。それぞれの利用者の状態に合わせて、一口大にきざむなどしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、1日おきを基本にしているが、職員の対応に余裕がある限りは、毎日でも可能。ホームにある一般浴槽に入ることが難しい利用者には、併設するデイサービスの特浴を利用する支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者それぞれの持つ力を大まかに把握し、家事についても、個々に「できること」を見つけてあげ、役割にしてもらっている。自らやりたいことがあれば積極的に実行に移すように支援している。家族と共にお酒を楽しむ利用者もいる。	○	まだ、ボランティアの受け入れには着手できていない。近くの老人大学等に、ボランティア依頼をするなどしてはどうか。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には、近くのスーパーによく買い物に出かけている。近くに公園や大型商業施設もあり、家族の協力も得たりしながら、花見や紅葉見物など季節の変化が感じられる行事も積極的にこなしている。弁当、おやつ等を持って行くなどし、楽しんでいる。	○	地域の公民館で月1回開催される「ふれあい広場」への参加も、検討してみてもどうか。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は原則として施錠していないが、玄関鍵については、その日の利用者の心理状態によって、やむを得ず施錠する時がある。帰宅願望の強い利用者が玄関を出た場合は、職員がその後をついてゆき、ホームと連絡を取り合っている。居室については利用者自身によって施錠することができる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事故防止マニュアルや緊急時対応マニュアルを設置し、防災計画は提出しているが、避難訓練はまだ実施できていない。地域や消防などにも協力の働きかけはしていない。	○	消防・避難訓練の早期実施が求められるが、これら災害対策に関しては、近隣住民の協力も得られるよう、住民への働きかけも、ぜひ取り組んでほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立しており、大まかな摂取カロリーは把握できている。個別の食事摂取量はチェック表に記録され、水分摂取量については、必要な利用者について記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには季節の鉢植えや観葉植物を置いている。玄関ホールを入ったところやリビングの一角にはソファを置き、談話コーナーにするなど、落ち着ける居場所になっている。テラスにはリビングからすぐに出ることができ、置かれたベンチや庭で思い思いに過ごすことができる。庭の一部を家庭菜園にしており、季節野菜の収穫は利用者の楽しみでもある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはトイレと介護用ベッドが備え付けられており、入居時にはできるだけ馴染みの物を持ちこむようにしてもらっている。環境については、できるだけ空調設備に頼らず、自然の空気を感じてもらおうよう、職員が特に換気に気を配っている。		

※  は、重点項目。